

平成30年度 富山高等専門学校 運営諮問会議 議事概要

日 時：平成30年11月19日（月）午後2時～午後4時30分

会 場：富山高等専門学校本郷キャンパス大会議室

【会議次第】

1. 開会挨拶

2. 出席者紹介

3. 議 事

[1] 富山高等専門学校の現状と課題について

[2] その他

4. 閉会挨拶

【出席委員】

[敬称略，順序不同]

遠 藤 俊 郎（富山大学長）

森 孝 男（富山県立大学副学長・工学部長）

清 水 康 男（富山県中学校長会会長）

伊 藤 茂（朝日印刷株式会社専務取締役管理本部長）

*濱 尚 富山高等専門学校技術振興会会長の代理

土 屋 正 徳（一般社団法人全日本船舶職員協会専務理事）

柿 沢 昌 宏（富山県商工労働部次長）

*伍嶋 二美男 富山県商工労働部長の代理

高 木 繁 雄（富山商工会議所会頭）

久 和 進（北陸電力株式会社代表取締役会長）

石 山 彰 雄（富山高等専門学校同窓会副会長）

【欠席委員】

金 岡 純 二（公益財団法人富山第一銀行奨学財団理事長）

杉 野 太加良（株式会社スギノマシン代表取締役社長）

市 川 吉 晴（立山マシン株式会社事業推進室理事）

【富山高等専門学校出席者】

賞 雅 寛 而（校長）
寺 西 恒 宣（副校長）
水 谷 淳之介（副校長）
柴 田 博 司（教務主事）
塚 田 章（教務主事）
渡 邊 悟 司（事務部長）
池 田 裕 計（総務課長）
村 道 俊 一（管理課長）
戸 田 克 己（学務課長）
河 口 早百合（総務課課長補佐）
中 田 由紀子（総務課課長補佐）
竹 腰 貢三子（総務課課長補佐）
矢 郷 允 利（総務課主査）
成 瀬 暁 恵（総務課主査）

議 事

[1]富山高等専門学校の現状と課題について

【賞雅校長説明】

- 高専の特質として、15歳からの青少年に早期の専門基礎分野の教育を施す。基礎から応用までの先端的な研究をしている教員が教育できることが、高校や専門学校と違うところである。
- 高専は、全国にまんべんなく設置され、地域産業界と密接に連携している。富山県は海洋県、工業県であるが、産業構造の規模の割には高等教育機関が少ない。県内での高等教育機関としての本校の役割が極めて重要である。
- 本校は、平成21年に高度化再編により、富山工業高専、富山商船高専が統合してスーパー高専となった。全国で唯一の文系学科があり、商船学科は東日本では富山だけである。県外の学生や女子学生が多いのも特徴である。
- 地元への就職率は、全国高専の中で第4位であり、地方都市としてはトップである。
- 科研費採択等については、51高専の中で本校は採択件数、配分額ともにトップクラスで、

教員のレベルが高い。

- 県内の産業界とのネットワークとして技術振興会があり、県内企業の約260社が参画している。
- 現状としては、1年次の混合クラス、学力試験での志望卒の拡大、入試広報の強化等に取組んできた。
- 約50年前に社会の要請に応じて高専ができ、技術者を養成してきたが、経済が成熟し社会の変化、少子高齢化、国際化に対応していかなければならないことが、現在の高専の課題である。

【質疑応答及び意見交換】

(遠藤議長)

平成21年にスーパー高専となってから、現在の富山高専の大きな課題は何か。

(賞雅校長)

1つは、教員の削減について機構本部から加速するよう要請があり、今後10年間で25名の削減を言われている。もう1つは、少子化の中で優秀な入学生の確保が厳しいことが課題となっている。

(遠藤議長)

社会の変化、要請により今改めて高専の良さが見直されてきているのではないか。若者が社会に求められている。

(賞雅校長)

高専は、AI、IoT を得意としていて、またコミュニケーション能力もあり卒業生については企業及び大学から高い評価をいただいている。

(石山委員)

そもそも教育に関する予算を削減することに問題があるのではないか。1クラス30～35名にする等教育の現場から必要性について提言していくことが重要である。また、高等専門学校という名称を変更することはできないのか。一般の専門学校と同じに見られている。更に、前回説明のあった学科を増やす件はどうなったのか。

(賞雅校長)

30～35名のコース制にすることについては検討できるが、コース制にしても教員数については担保ができない。高専全体の人数が法律で決まっているため、1高専では対応が

できない。7月に文部科学省との打合せで、新学科については厳しいとの意見があった。また、名称変更については機構本部の方で対応することとなるが制度を変えるのは難しい。

(遠藤議長)

国立大学の場合、現在82ある大学は3つのグループの重点支援に分けられ、富山大学は重点支援①の地域連携に重点を置いて世界にメッセージを発信する大学となっている。国立大学協会で情報共有はしているが、1大学1法人のため全てにおいて各々の大学での対応となる。

高専は、独法化により高専機構本部で管理されているのか。

(賞雅校長)

高専は、国立高専機構から給与が支給され、予算については本部が主体となって51高専を管理している。独法化後は、1高専では動けない。自民党の文部科学部会・高専小委員会からの応援はあるが、まだまだ抜本的な改革はない。

独法化により、予算は効率化係数1%の削減があり、毎年4,000万円の予算が減っていく。なかなか変えられない現状があり、教員の人件費に手を付けざるを得なくなった。機構本部が対応を考えている。

(遠藤議長)

私は、富山大学学長として8年間議長させていただいたが、この間富山高専では、努力と成果の証が見える。その実績・状況について運営諮問会議としてのメッセージが、出せばいいと考えている。

(賞雅校長)

本校としては、運営諮問会議の意見をステークホルダーからの意見として機構本部に上げていき、機構本部から文部科学省へ意見を上げることとなる。外部へのアピールを諮問会議でしていただけることは、大変に有り難い。

(高木委員)

先般、総務省が来られた際の意見で、スタートアップができていない、効率化、リストラができていないと言われた。外部の目は、非常に厳しい。

現在、教育産業が減る中で小中高及び大学の再編があり、学生の確保が非常に重要である。私が富山大学で講義をした際に聞いたことで、高専の学生は大学生に比べて勉強時間が非常に長く、真面目である。そのデータを取って示した方がいい。富山高専の良さ

を内外に出していかなくてはならない。そのため、企業も高専の卒業生を望む。それは、高校生の段階で大学レベルの学習をするからである。今後は、専門性の高い学校が必要となってくる。一方で、変化に対応できる人材が必要である。

教員の削減については、一般教養の教員を減らすことはできないか。教員に多様性、専門性を持たせてはどうか。各教員に意見を出させるのはどうか。

(久和委員)

効率化については、2キャンパスがあるのであれば、富山大学のように検討するのはどうか。高専に対しては、産業界からの要望が大きい。職業高校が3年でいいのか、もっと高度な教育が必要ではないのか、教育制度の見直しが必要で、いろいろな場で議論していくべきであろう。

国際ビジネス学科は、女子学生が多いと言われたが、どこに就職しているのか。女子学生が、富山県内での就職が少なく、県外に出て行ってしまう。県内に就職してほしい。

(賞雅校長)

国際ビジネス学科の学生は、偏差値が高く、大学進学が多い。就職している学生は、地元の県庁、市役所等、行政職に就いている。

(遠藤議長)

富山大学では、女子学生の県内での就職は少ない。

(賞雅校長)

国際ビジネス学科の進学は、全国トップクラスである。進学後、半数が富山で就職していると聞いているが、数字を持っていない。更に、富山に戻る教育をしていきたい。

(遠藤議長)

是非、成果をうまく見せるようにしてほしい。

(森委員)

高専生は、進学、就職ともに非常にいい。本来であれば、高専卒業後、高度な技術者として社会に出るべきかもしれないが、進学率が高いのは保護者の意向もあってか。進学する場合に、入試形態が一般高校からの受験と違い、編入学で更に高度な教育を受けることができるということが高専の魅力に繋がっている。しかし、高専から進学し就職した場合と、大学卒の違いが見えにくいのが、早期からの高度な教育を受け下地作りができていたためか、人材がいい。もっと、高専のメリットを見せるといいのでは。

教員削減については、いろんな工夫が必要であろう。先程からあった意見のとおり、合

理化するとか。

(賞雅校長)

進学先の大学からは、高専生は基礎ができていると言っただき、進学者も増えている。

教員削減については、まだまだ我々の気合が足りていないか。教員が削減されても、教育の質が落ちないように努力したい。

(土屋委員)

パンフレットを見たが、富山高等専門学校の名前の頭に「国立」を入れるべきである。価値観が、全然違って来る。専門学校と勘違いする。

次に、富山への意識が強すぎる。学校は国立であり、富山ではなく日本国で考えることが必要。グローバルな視点で考えてほしい。スペシャリストを育成してほしい。

更に、商船学科に入学する学生の県外出身者が少な過ぎる。富山の商船学科は立地がいい。東北から一番近いので、学生を引き入れるべきである。日本は島国なので海運業が重要であり、出口をしっかりとる必要がある。

(賞雅校長)

近年は、商船学科の入学者は県外出身者が増えてきている。商船学科・国際ビジネス学科を強調したポスターを作成して全国の中学校にPRし、好評である。しかしながら、保護者の意向があつてか、学生が自宅から離れない現状がある。今後も、全国から学生を募り、県外者を増やしていきたい。

(伊藤委員)

朝日印刷には、富山高専が最終学歴だという社員が30名ほどいる。主に、製造技術、生産技術、中には生産本部の管理者に携わっていて、社内で幅広く活動している。製造に纏わる高専生は入社以降安定感がある。もっと、高専生に来て欲しい。また、わが社では国際教育財団があり、大学の留学生に奨学金を出している。日本人が少なくなっているというのであれば、留学生を増やしていくのもいいのではないか。ご検討いただきたい。

(賞雅校長)

それに合わせて、本校でも本科から英語の授業を増やしていて、英語教育に力を入れている。今いる11名の留学生は日本の国費で留学しているので、これからはタイやマレーシア等自国の予算での留学生を増やしていきたい。留学生は3年生からの編入生で、年

齢は17歳から20歳を過ぎている者もいる。

(遠藤議長)

海外の留学生など、新たな人材の開拓が必要か。

(賞雅校長)

国際化への対応を含め、富山の企業は海外に支社があることが多いため、本校では英語に力を入れていて、海外で活躍できるよう対応している。留学生は、非常に重要である。

留学生は、日本での就職を希望するが、法律が整理されないと厳しい。

(高木委員)

文部科学省と厚生労働省が、留学生の就職に対して弾力性をもって検討をしてもらいたい。就職とマッチングできない現状がある。

(遠藤議長)

富山大学でも、薬学部の留学生が就職しにくい現状がある。

県の立場としてはどうか。

(柿沢委員)

留学生が重要であるが、課題も多い。

県商工労働部としては、高専や大学と産業界支援のために、学と産の連携を応援していきたい。IoT、AIについては、情報系の学生と一緒に取組んで成果を出したい。県としては、先月ワークショップを実施したが、その際に技術については大学よりも高専の方が企業に近いとの意見があり、今後は是非高専と一緒にやっていきたい。企業からは、高専や大学の力を借りて学ぶことはできないかとの意見がある。富山県は、ものづくり県である。技術的レベルが高く、それを担う人材が求められている。高専や大学と一緒にやっていきたい。

(賞雅校長)

IoT、AIは、高専が得意とする分野であるので、協力させていただきたい。

本校は、優秀な技術職員がいる。高度な機械や人材・技術が揃っているので、是非協力したい。

(柿沢委員)

県としては、予算でないところで協力ができたらと考えている。

(高木委員)

学生のためにも、交通費とか謝金とか検討してほしい。

(久和委員)

学び直しやリカレント教育があるが、仕事があると座学形式での勉強は難しいので、インターネットを使った教育を検討いただきたい。

(遠藤議長)

放送大学のデータなどを利用するのもいいのではないか。

(石山委員)

高専制度は、5年で卒業するのが完成教育である。社会に出ることが重要であり、受け皿を作る必要性がある。

(高木委員)

世の中は変化しているため、それに対応していくことも重要である。高専生は、しっかり勉強しているので、その強みを徹底的に生かしながら発展していくのがいいのではないか。

(清水委員)

中学校では、2年生から進路学習をしている。富山県中学校長会で作った県内全ての学校を紹介した「進路のしおり」を参考に、早い段階から情報収集し検討している。3年生になると、高校や高専に体験学習に行っている。高専を志望する生徒は、特に目的意識が高く、しっかりとしたビジョンを持っている。5年間で就職を希望する生徒もいる。先程、県内の学校紹介と言ったが、県西部は石川県への利便性があるため、石川高専も掲載している。しかし、主な志望先は建築学科、環境都市工学科であり、富山高専とは競合していない。

(遠藤議長)

重要な発言をいただきました。一部の生徒であっても、中学3年生でビジョンを持った生徒がいることがわかった。すばらしいですね。

(清水委員)

富山県では、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」という5日間の職業体験がある。保育や食品、医療関係に行っている。20年目を迎え、全国でも珍しい取り組みであるが、それが生徒を啓発させ、自分に合わない職業も分かるようだ。文部科学省からも評価されている。

(遠藤議長)

纏めに入りたいと思うが、高専のいいところをいかに伸ばすか、高専から声を上げる必要があるのではないか。

- ・ 高等教育機関である高専の在りよう、高専の位置付け。
- ・ 国立を前面に出す。
- ・ 5年教育の表現の仕方。
- ・ 高専卒業生の給与水準を大学並みにする
- ・ 早い時期からの職業人の育成

高い意識を持って、富山高専の良さを生かす。8年間、議長をさせていただいたので、纏めたいと思う。

最後に、質問はありませんか。

(久和委員)

高専の専攻科とは、何か。位置づけは。

(賞雅校長)

7年間教育であり、学位が大卒と同じになる。専攻科は、大学の大学院と同じで、主に研究活動をしている。大学の方では、編入学より専攻科生を希望している。ニーズが多く、多様性を考えての対応である。

高専教育は、早期からの専門教育を施すことであり、今後も社会の要請に応じていきたい。

(遠藤議長)

高専のよさを生かすためにも、全国のトップランナーである富山高専から発信していただきたい。

[閉会 午後4時30分]